

平成 20 年 9 月 24 日

社団法人建設コンサルタンツ協会九州支部  
「夢アイデア企画」委員会 御中

「川と歴史遺産を生かしたまち」

# 川と歴史遺産をまちづくりに生かす

## 1. はじめに

沖縄県の県都那覇市の北に隣接する浦添市は、都市化によって人口が年々増加し、平成10年には10万人を超えました。約19k㎡の市内の西海岸には米軍基地キャンプ・キンザーがあるため、狭い市内の丘陵地帯まで住宅が建ち並び、急激な開発によって自然が壊され緑地が著しく減少しています。人口増加に伴い生活排水による河川の汚濁も問題となり、市内を流れる牧港川の水質は、県のワースト3に入る状況です。



【図1】浦添市を流れる川と史跡

汚れの原因の七割以上は生活排水です。川の上流に当たる下水道の未整備な他の市町村から流れ込む汚水も大きく影響していますが、下水道整備の進んでいる浦添市も無関係とはいえません。

【図2】浦添市の航空写真

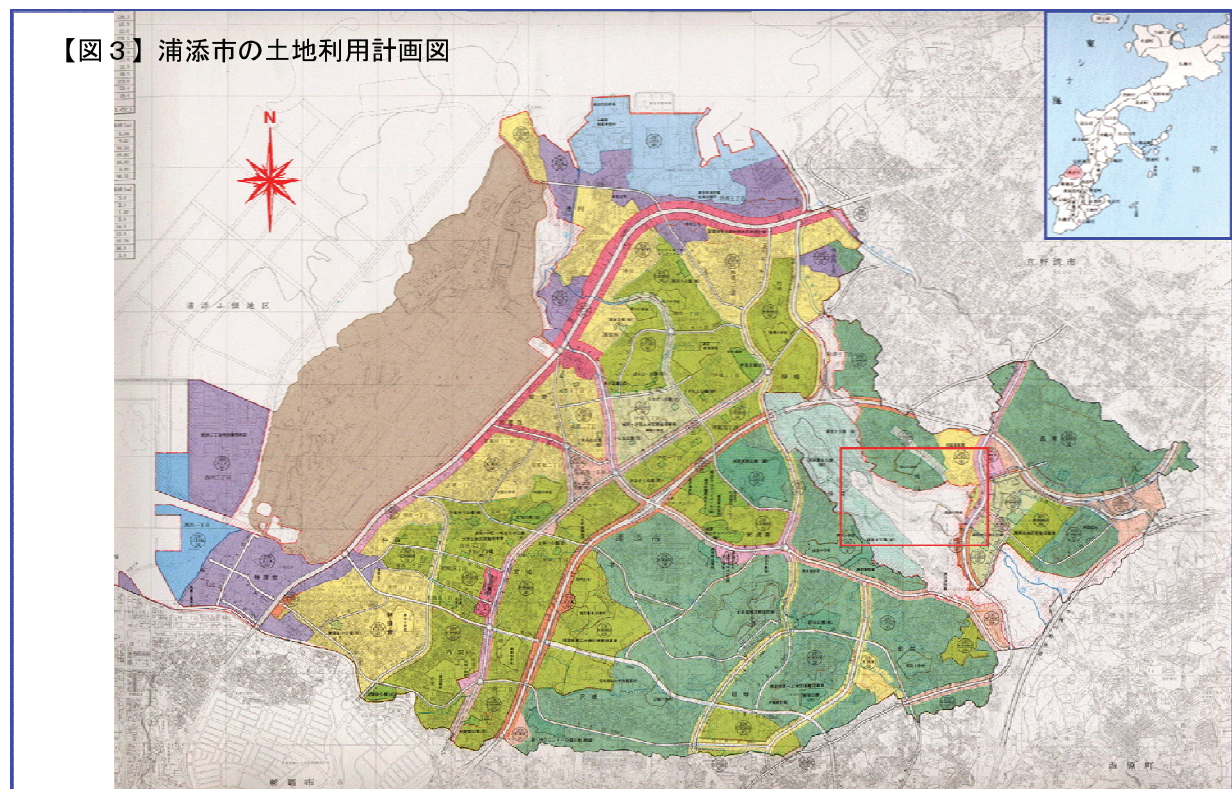
(赤枠内には、浦添グスクや市街化調整地域の「当山地区」がある)



一方、浦添は、首里王朝以前の都でした。琉球王国の発祥の地であり、奈良のような歴史薫る古

都といえます。平安時代後期の1187年、舜天王が即位し、英祖王統、察度王統と約220年にわたり栄華を極め、長い歴史に育まれた数多くの史跡が点在しています(図1の赤丸はその一部)。去る沖縄戦において壊滅的な被害を受けましたが、ようやく徐々に歴史的文化財の復元が行われ、浦添グスクの発掘調査と城壁の復元も、少しずつ進んでいます。

都市化が進んでいるとはいえ、浦添グスク周辺にはまだ緑が残っており、王都としての顔を復活させるためにも、残された緑地を乱開発から守る必要があります。私の所属する「NPO法人まちづくりてだこ市民会議」は、川と歴史遺産という二つの側面から浦添のまちづくりを考えるべきであるとして、活動を行ってきました。



平成18年2月、私たちのこれまでの活動を発表する、絶好の機会が与えられました。第23回地域づくり団体全国研修交流会の沖縄大会が開催され、私たちは分科会を主管しました。テーマは、「琉球王国発祥の地」のまちづくり—世界遺産を見据えてグスクと水辺を考える—。

牧港川の流域に市街化調整区域として残されている当山地区。浦添グスクに隣接するこの地域の重要性についてフォーラムを開催し、全国の団体に大きな関心と感動を与えることができました。

## 2. 課題と提案

分科会のフォーラムでは、市街化調整区域の当山地区の緑を保全し、環境学習の場にするのに大きな意義があると賛同を得ることができました。また、課題もより明確になりました。

コメンテーターの発言には、「当山地区にあえて手を加えない」「川の浄化を通して環境教育をしていく」「湧水を川に導入する」「上流の地域と一緒に川を考える」といった賛成意見のほか、「子供たちが思い描くハード施設の実現には慎重でなければならない」「貸し農園にしても当山地区に

造らず、上流にある西原町の広い畑地を利用する」など、反省や参考になる点多々ありました。

当山地区はグスクのバッファゾーンとして重要な地域であるばかりでなく、浦添グスクの城下を流れる牧港川の流域でもあります。王都のあった浦添を流れる牧港川が悪臭を放ったままで良いはずはありません。

牧港川は平成9年に生活排水対策重点地域と指定されて以来、約10年経過しているにもかかわらず、一向に水質の向上が見られません。市の下水道普及率が96%と高水準にありながら成果が上がらないのは、牧港川流域にある浄化槽のうち未だに単独浄化槽が多く残っていること、また上流の西原町・中城村から汚水が流れ込むことが大きな要因となっています。

清流を取り戻すには、流域住民に広く関心を持ってもらうことが不可欠です。

私たちは、楽しみながら川のことを知ってもらうイベントに思い至りました。「川まつり」です。まつりに参加することによって、川の汚れの実態を肌で感じることができます。またまつり続けることによって目に見える形で川がきれいになっていくとしたら、参加者の大きな励みにもなります。そこで、市民および流域住民にもっと川を身近に感じてもらうよう、「川まつり～牧港川に清流を取り戻そう～」というイベントを計画することになりました。

### 3. 川まつり～牧港川に清流を取り戻そう～

#### (1) 計画と準備

「川まつり」開催のためには、行政と民間企業そして現在活動している諸団体のネットワーク構築したうえ、実行委員会を立ち上げる必要があります。

2007年9月、「川まつり～牧港川に清流を取り戻そう～」実行委員会を立ち上げました。メンバーは、水質を測定・分析している専門家、アウトドアスポーツの専門家、会場の提供者、地域のネットワークに携わる方々など、多様な構成としました。



#### (2) 実施

第一回目の川まつりは、2008年6月29日(日)、「コープ牧港」付近で開催しました。

ユキヒロさん、中西礼奈さんのミニコンサートや、シーカヤック体験、環境学習などのイベントを通して、参加者にまずは牧港川の実態を知ってもらうことが目的です。環境に配慮して使い捨ての食器は使用しないなどエコカーも出動、出店にも協力をお願いしました。





「川まつり」には多くの市民が参加し、行政・企業・市民団体の協働で成功裏に終わりました。

しかし一度だけの開催ではなく、毎年開催することに意義があります。開催には多くの資金が必要で、今後どう継続していくかも大きな課題です。

#### 4. 夢と展望

川の浄化とともに重要なことは、浦添グスクを世界遺産に追加登録をするためにも、グスク周辺の景観の整備を十分考慮しなければならないことです。

幸いに世界遺産に追加登録すべく法的整備に取り掛かろうと、浦添市が条例制定に向けて動きはじめました。平成18年8月、市民や建築・緑化関係、有識者らでつくる市景観まちづくり市民会議が発足しました。歴史や文化、地形など地域の特性に応じた景観形成の方針と区域などが決定されることは、大変喜ばしいことです。仲間集落も城下町の体裁を整えるための法的整備に取り掛かろうとしています。

平成17年4月に王陵「浦添ようどれ」が復元され、一部ではありますが城の体裁が整って訪れる人々も増えてきました。モノレールの延長も



浦添ルートに決まり、近い将来、浦添グスクが世界文化遺産に追加登録されれば、観光客も多く訪れるでしょう。

牧港川が清流をとり戻す。当山地区がグスクのバッファゾーンとして機能を果たす。そしてわがまち浦添が「川と歴史遺産を生かしたまち」になる。これが私たちの描く夢です。

今後も多くの市民団体と手を組み、浦添市だけでなく上流の市町村を巻き込んで川まつりを継続していきます。マスコミの力を借りることで、高度な浄化技術を持つ企業や研究者の参加も、可能になるかもしれません。

